

高齢地域住民に対するポリファーマシーのスクリーニング方法の検討

間瀬 広樹 ● 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 副薬剤部長



薬剤師による聞き取り風景

要旨

多剤併用は単に剤数の問題でなく、あらゆる薬剤の不適切問題とされる。患者に負担のかからない短時間で、簡便にスクリーニングすることを目的としたシートを作成する研究を行った。75歳以上の高齢者を対象に、薬剤交付窓口で同意後にアンケートを行った。直近6カ月の症状、服薬困難感、減薬希望などを聞き取った。症状や減薬希望はイラストを用いて高齢者でも回答しやすいように工夫した。薬歴などを参照し、年齢や薬剤師による主観的な服薬管理能力なども併せて調査を行った。153名が登録されている。目標症例数300例を予定しており、症例の集積を待つ解析を行う予定である。スクリーニングの時間や聞き取りに対する否定的な意見や、処方医からの研究の安全性に関する問題は報告されていない。

また、薬剤師からもスクリーニングシートに対する否定的な意見はなく、介入への意識の向上が認められている。今後は、処方医や訪問看護師、薬剤師の情報提供・共有なども検討していく予定である。

1. 背景と目的

多剤併用(以下、ポリファーマシー)は単に剤数の問題でなく、あらゆる薬剤の不適切問題とされる。一方で、潜在的な不適切な薬物(Potentially Inappropriate Medications: PIMs)による薬物有害事象が、薬剤起因性の老年症候群の出現の可能性になることも考えられる。

薬物有害事象、転倒、受診科数診療報酬(負担率)とポリファーマシー状態が関連していることが報告されている。それらがポリファーマシーによるものなのか、それら因子の結果、ポリファーマシーになっているのか、詳細の結果は報告されていないが、ポリファーマシー状態であるかを定期的に見直すことは薬剤師の職能を活かす上で重要である。

我々は、ポリファーマシーと老年症候群の症状が薬物有害作用の症状と類似していることに着目し、老化に伴う複数の臓器の機能低下による「めまい、抑うつ、食欲低下、便秘などといった様々な一連の症状」とポリファーマシー、患者減薬希望の関係性についての詳細な検討は行われていないこと。また、かかりつけ薬剤師制度の充実により在宅療養患者への薬局薬剤師の重要性が増している



写真1 Zoomによるプロトコル検討会

中、薬剤交付窓口で患者に負担のかからない短時間で、簡便にポリファーマシー状態をスクリーニングすることを目的としたスクリーニングシートを作成すること。それに重要な意義があると考え、研究を開始した。

図1 症状聞き取り用紙



図2 減薬希望聞き取り用紙



2.活動の方法

病院薬剤師と保険薬剤師でスクリーニングシート作成のための会議(写真1)を行い、プロトコルを作成した。プロトコルは、スギホールディングス学術研究・倫理委員会にて承認され、研究を開始した。COVID-19感染拡大状況により薬剤交付窓口での聞き取りが困難となり、研究期間の延長や施設の追加を行った。

老年症候群のスクリーニングを統一化するために、東京大学大学院医学系研究科加齢医学講師 小島太郎先生に『ポリファーマシーと薬剤性老年症候群』と題した講演をお願いした。

75歳以上の高齢者を対象に、薬剤交付窓口で患者同意後にアンケートを行った。アンケートは、薬剤管理方法(自己管理など)、直近6カ月の症状の有無(症状がある場合には詳細な聞き取りを実施)、転倒歴、服薬困難感、減薬希望などの10項目を聞き取った。症状(図1)や減薬希望(図2)、排便状況はイラストを用いて高齢者でも回答しやすいように工夫した。

薬歴などを参照し、年齢などの患者背景や薬剤師による主観的な服薬管理能力、服用薬剤数なども併せて調査を行った。同意後、6カ月間の処方内容や症状変化を追跡した。必要に応じ、処方医に疑義照会やトレーシングレポートなどで情報共有を行った。

3.現状の成果・考察

2022年4月15日現在、153名が登録されている。目標症例数300例を予定しており、症例の集積を待って、主評価項目としてポリファーマシー(剤数)と老年症候群の関連性について検討を行い、スクリーニングシートを完成させる。副次評価項目として、ポリファーマシーおよび減薬希望に関連する因子を特定する計画である。

エントリー中の患者よりスクリーニングの時間や聞き取りに対する否定的な意見や、処方医からの研究の安全性に関する問題は報告されていない。また、スクリーニングを行っている薬剤師からもスクリーニングシートに対する否定的な意見はなく、ポリファーマシー介入への意識の向上が認められている。

4.今後の展望

目標症例数に達した段階で解析を行い、スクリーニングシートの精査を行う。新たなスクリーニングシートによりポリファーマシーに介入し、その変化や患者満足、予後について検討を行う。スクリーニングシートを用いることによる処方医や訪問看護師、薬剤師間など、医療者間の情報提供・共有やそのあり方について検討していく予定である。

また、薬剤師の処方介入や満足度を評価し、薬剤師の介入の均てん化に向けた教育効果なども検討していく予定である。